

## 鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 25 年 6 月 7 日)

【二十二】樊遲 仁を問う。子曰く、人を愛すと。知を問う。子曰く、人を知ると。樊遲  
未だ達せず。子曰く、直きを挙げて諸を枉れるに錯けば、能く枉れる者をして直からしむ  
と。樊遲 退きて子夏を見て曰く、郷に吾 夫子に見えて知を問いしに、子曰く、直きを  
挙げて諸を枉れるに錯けば、能く枉れる者をして直からしむと。何の謂ぞやと。子夏曰く、  
富めるかな言や。舜 天下を有ち、衆に選びて皐陶を挙げ、不仁者遠ざかる。湯 天下を  
有ち、衆に選びて伊尹を挙げ、不仁者遠ざかると。

孔子が 64 歳の耳順の時です。樊遲は 28 歳、その後に出てくる子夏は 20 歳。相当お年の先生が、若者に話をしているというところです。意識的に同じものを編纂した逸話を選び出していると思います。同じ質問に対して答え方を変えている。人によって答えが違います。

樊遲が孔子に「仁とは何でしょうか」とお聞きしました。孔子は、「人を愛することだ」と答えました。さらに「知とは何でしょうか」とお聞きしました。孔子は「人を知ることだ」と答えました。樊遲は未だ分からない。「直き」は今の時代でいえば、まっすぐな人。「枉れる」は心がまっすぐではない人間。

現代でいけば、日本維新の会をみると良いと思います。くせ玉を投げる橋本さんを、直球勝負で真正直なことしか言わないというイメージがある石原慎太郎さんの上に置けば、周りの人達は皆まっすぐになってくるという風に日本維新の会はみた。くせ球を投げる者の上に、まっすぐの玉を投げる者を上に置けば、皆くせ玉をなくして、まっすぐに投げるのではなからうかと解釈をするとよいでしょう。

樊遲が孔子の前から退いて子夏に会い「私は先生にお会いして知についてお聞きしたけれど、先生のお答えはまっすぐな人間を、心正しかざる者の上に置けば、みな真正直な人間にすることができると言われてたけれど、どういうことだろか。私には良く分からない」と言ったところ、子夏は「素晴らしい奥行きのある言葉を先生は言われるものですね。その昔、舜帝が君主になった時には、皐陶という人物を引き立てたら、心正しかざる者は皆去っていったし、殷の湯王が君主になった時には、伊尹という人物を登用したら、不心得者が遠去かっていった。やはり、まっすぐな人間を上置くのが国を治める秘訣ではないでしょうか」と答えた。ここら辺は、さて、皆様はどうお考えでしょうかという質問が隠れていると私は読みます。

そうすると今の時代で考えて見ますと、はたして安倍首相はまっすぐな人なのか、それ

とも枉れる者なのかと考えた時に、真正直でまっすぐな人とは感じられない。結構くせ玉を投げているから。そうすると枉れる者を安倍さんであると考えた場合、枉れる者が上にいたら下の者は更に枉ってくるのではないのか。その一つの例が、直き者が上に立ってアベノミクスを勧めたのであれば成功する可能性が出てくるが、短期的な視点で眺めた時に、枉れる者が上にいてアベノミクスを推進すれば当然乱高下しますから、一時的には良いものになったとしても、結果としてはおかしくなるであろうと感じます。

世の中を見ていますと、直き者もいないし、極端に枉れる者もいない。中途半端が多いと感じますから、やはり日本経済は失速するでしょう。

皆様も自衛策をもっていかねばいけないと思います。年金はお先真っ暗になりますし、生活保護もまともに貰えない状況になりつつあります。それなら海外に資産を動かせば良いと考え海外に動かした人達も、5千万円以上の資産を海外に置いた人達はこれから税務署にやられます。ということで八方塞がりだろうと感じます。国民は国内外どこにいようが、八方塞がりになるような手立てを、今の日本政府はせっせと手を打っています。それが見えてくるのは参議院選挙が終わってからだと思います。従いまして自給自足の道を進めなければいけないというのを、ここの「直き」と「枉れる」とを推察して見えてくる部分です。